

阿賀野川
aganogawa E-toko dayori

えーとこだより



ここにあるすべてが、
かけがえのない「宝もん」。

「雪晴の麒麟山」(津川 2月) 撮影:山口冬人(NPP新潟県写真家協会理事)

もくじ

お知らせ

特集「無類の宝山」	2
草倉銅山が残したもの	
パネル展「草倉銅山の光と影」	3
草倉銅山ツアーを開催	4
草倉銅山パネル巡回展こぼれ話	5
紙芝居「草倉銅山物語 絶賛上演中！」	6
「阿賀野川えーとこだ！環境学習」	7
プロジェクトはじまる！	
ロバダンしませんか？	

新潟水俣病を
未来へ伝えるために。

美しく、自然の恵みに満ちた阿賀野川。長い歴史の中、人々はこの流域で自然とともに暮らし、豊かな文化を育み紡いてきました。しかしながら、そうした営みの中では「新潟水俣病」の発生というつらい出来事もありました。

「阿賀野川えーとこだプロジェクト」(FM事業)は、過去と向き合い学ぶことで地域の絆や自然との共生を紡ぎ直し、よりよい未来を住民の皆さんとともにつくっていこうとする取り組みです。負の側面から語られる多くの「新潟水俣病」も、現在、そして未来へ伝えていくためにここでなければ学ぶことのできない教訓として、どうえ直したいと考えています。阿賀野川流域地域は「宝もん」がたくさん詰まつた「えーとこだ！」。そんな思いを胸に、FM事業はさまざまな活動に取り組みます。多くの皆さんと出会い、語りあいたいと心から願っています。

総合プロデューサー 小川弘幸



「無類の宝山」 草倉銅山が残したもの

明治時代、東蒲原の豊かな鉱物資源と阿賀野川の水運が生んだ繁栄と衰退。

阿賀町の「草倉銅山」は、日本の近代の歴史を伝える生きた博物館です。

写真●草倉銅山神社下の杉大木

阿賀野川流域には、縄文の昔から営まれてきた、自然と共に生きる所に豊かな暮らしの跡が至る所に残っています。そうした阿賀の歴史の痕跡の一つが、明治時代に大きく繁栄した阿賀町鹿瀬の「草倉銅山」です。

繰り返された 近代化の光と影

そこで、地域の方たちと共に、草倉銅山の歴史を掘り起こしてみました。すると、「明治の近代化に貢献し、地域一帯が賑わった一方、足尾銅山（栃木県）のように鉱害の兆しに注意が払われず、銅の枯渇と共に衰退し、山中には建物ひとつ残らなかつた」ということがわかりました。

これは同じ鹿瀬の地で、昭和の高度経成長期に地域に繁栄をもたらした企業の操業が、一方で「新潟水俣病」という公害の発生につながつたことと大変よく似ています。

生きた博物館

明治、そして昭和。大きな時代の流れの中で、日本の近代化の歴史が生んだ光と影を実際の場所で学ぶことのできる、生きた博物館が「草倉銅山」です。このことをもっと知り伝えるために、現地を訪ねるツアーやパネル展を開催しました。

パネル展 「草倉銅山の光と影」
阿賀町の温泉施設などを好評巡回中！

主催：新潟県、共催：阿賀町、協力：阿賀町観光を考える会
企画：阿賀野川え～とこだプロジェクト事務局

来場者の感想

- 始めは栄えていたのに、最後は誰もいなくなり悲しい。(10代・阿賀町)
- 銅がたくさん採れた一方、公害など問題も多かったと知った。(10代・阿賀町)
- 昭電による公害以前の草倉の歴史を知り感慨深い。(70代以上・五泉市)
- 草倉は知っていたが昔の昭電も思い出され懐かしい。(70代以上・阿賀町)

日本の激動期、東蒲原の豊かな鉱物資源と阿賀野川の水運により一代で財閥を築いた男と、坑道に命を燃やした名も無き坑夫達の絆…。近代的な技術と設備によってもたらされた繁栄の一方で、煙害や魚類への被害など、その後全国に起る公害問題の兆しを見ることが出来る「草倉銅山」の歴史を、わかりやすく紹介するパネルを制作しました。3月まで阿賀町の温泉施設等で巡回展示します。ぜひご覧下さい。

パネル巡回展 今後のスケジュール

- 1/7～1/24 11:00～15:00 角神温泉「ホテル角神」
- 1/28～2/14 10:00～20:00 御神楽温泉「みかぐら荘」※2/9休館
- 2/18～2/28 10:00～20:00 かのせ温泉「赤湯」
- 3/5～3/20 9:00～17:00 狐の嫁入り屋敷※3/11・18休館

お問い合わせ: 阿賀野川え～とこだプロジェクト事務局 TEL/FAX0250-68-5424

●元文4(1739)年、三角沢で鉱脈を発見したことが始まりとされています。明治8(1875)年、後の鉱山王・古河市兵衛が経営権を取得、採掘に乗り出しました。最盛期を迎えた明治の中ごろ、6千人が暮らした山内で一番最初に電話が入るなど、先進的な生活が営まれていました。

●良質の銅を多く産出し、「無類の宝山」と呼ばれた草倉銅山ですが、坑夫たちは落盤事故や珪肺(けいはい)などの職業病により短命でした。また、煙害や魚類への被害など、鉱害問題も発生していました。

●明治末、銅の産出量が減少し、大正3(1914)年に閉山。坑夫の多くは栃木県の足尾銅山へ移り、草倉銅山にぎわいも終焉を迎えました。

「草倉銅山」とは？



紙芝居 「草倉銅山物語」 絶賛上演中！

作者「こっこ」に
制作秘話を聞いてみました



「紙芝居」と「こっこ」、今後も阿賀野川流域に新しい風を吹かせてくれる最強タッグにぜひともご期待ください！



「そうです！流域全体の物語なので、上中下流の生活は様々だし、その歴史は長いから、今はストーリーで悩んでいます。完成したらもうござい作品になると思っています！」

Q 第二弾「阿賀野川物語」の制作が始まっているそうですが？

「まずは個人作業、その後それを基に三人でアイディアを出しながら作成しました。実は祭りのシーンの絵の構図はなかなか決まらなかつたんですよ」（板屋越さん）

Q 制作中はどんな気持ちでしたか？また上演してみていかがでしたか？「紙芝居が少しずつ形になつていくことがすごく楽しかった！上演した時は、思った以上に見てくれた人の評価が良くてホッとしたり嬉しかったです！」（浅川さん）



「こっこ」のみなさん。左から山口茉依さん、板屋越由希さん、浅川奈保子さん（次回作の取材で訪れた阿賀野市千唐仁（せんとうじ）の「阿賀のお地蔵さん」前にて）

親しみやすい絵と、子どもにもわかりやすいよう表現に気を配り制作したという紙芝居「草倉銅山物語」は、阿賀町で漬物を意味する方言「こっこ」という名のグループ、浅川奈保子さんと板屋越由希さん、山口茉依さん（同町三川地区在住）による作品。紙芝居の反響は徐々に広がり、「上演してほしい！」「読んでみたい！」という声が聞こえています。本職を持つ一方、実際に銅山跡に出向き、史料を調べ、絵と文を完成させた「こっこ」の皆さんにお話をうかがいました！

topics

草倉銅山ツアーを開催！

昨年10月25日に草倉銅山をめぐるツアーを開催しました。その様子をレポートします！

津川の街中から出発

当日の参加者は地元の方々を中心に35人。津川小学校文化祭で1日だけ展示されたパネル展の見学からスタートです。その後、津川の街中にある「平田邸跡」や「新丸屋旅館」跡など、古河市兵衛ゆかりの場所を散策しました。

いよいよ草倉本山へ

草倉銅山へは、地元の郷土史家・伊藤昭一さんの案内で入山しました。神社跡や朽ちつた石垣、崩れた坑道口。冬に向かう山は、少し厳しい表情に見えます。坑夫たちの墓に花を手向け、本山を後にしました。

帰路は、角神製錬所の煙の被害を受けたと言われる「中岩沢集落」を対岸に望みつつ、阿賀野川沿いに移動。坑夫の墓がある「龍藏寺」にて参加者で活発に話し合つた後、解散となりました。

今回は、地元の方々の案内のおかげで、当時の様子が生き生きと伝わってきて、新鮮な驚きが感じられたツアーとなりました。



かつての平田邸

かつての新丸屋旅館



三川温泉「三川館」



新三川温泉「you&湯ホテルみかわ」

topics

草倉銅山パネル巡回展こぼれ話

草倉銅山のパネルを展示するにあたっては、阿賀町の温泉施設や旅館、ホテルの関係者による「阿賀町観光を考える会」に相談させていただきました。複数の温泉施設の巡回展が実現したのは同会や役場のご協力があつてのことです。

一番最初の会場となつたのは三川温泉の「三川館」（阿賀町五十沢）。普段は宿泊客が入浴後に休憩するくつろぎのスペースが、期間中はギャラリーに変身しました。お風呂を堪能したあと、ゆっくりと明治の昔に想いを馳せて行かれる方も多かつたそうです。希望する方には、なんと支配人自ら紙芝居を上演して頂きました。今年の冬は、パネル展と温泉を現地で味わい観覧客をもてなして下さいました。

同館での展示は終了しましたが、巡回展は3月まで続きます。今年の冬は、パネル展と温泉を一緒にぜひ阿賀町へお越しください！



三川館・小林支配人

会期中、パネル展のために足をお運び頂いたお客様は80人ほど、宿泊の方も合わせますと400人以上の方にご覧頂けたと思います。遠くは村上、加茂、新潟市内からもお見えになりました。まず驚いたのは、メモなどを取りながら長時間熱心に観覧される方が多かったです。上条小学校の総合学習でいらした生徒さんに紙芝居を読んで差し上げたら、メモを取りながらい入るように聞き入って頂きまして、私もなんだか嬉しかったですねえ

これまでの開催会場

- 2009/10/25 津川小学校
- 2009/12/1 ~ 12/13 三川温泉「三川館」
- 2009/12/17 ~ 1/3 新三川温泉「you&湯ホテルみかわ」
- 今後の巡回展開催情報は3ページをご覧ください。

ロバダン
しませんか？



「阿賀野川え～とこだプロジェクト」では、流域の方々にFM事業を知つてもらい、流域の方々との接点を探るため、「少人数の寄り合い」を流域各地で開催しています。炉端に集まって談義するイメージから、「ロバダン！」と名づけました。

このような形で始めたのは、お互いの顔が見える小人数の方が本音で深く語り合えると考えたからです。



- 楽しく気楽に車座で！
- 地元のうんめえもんを食べながら！
- 自慢のこき合い、駄弁り合い

「ロバダン！」では話しやすい雰囲気を大切にし、新潟水俣病のみに話題を限定せず、地域のことや皆さんのが取り組んでいることなど自由に語り合っています。まずはお気軽に事務局までご連絡ください！



これまでの「ロバダン！」は…

これまで流域各地で「ロバダン！」を何度も開催し、地域の皆さんと様々なことを語り合ってきました。参加団体も、市民活動グループや商工会、観光業、農家、学校、行政関係者などなど、地域も職種も年代も実にさまざまです。

「阿賀野川の恵みを受けて育った農産物を阿賀野川ブランドとして売り出したくても、新潟水俣病の風評で売れなくなるかと心配で…」など、皆さんのが流域との関わりを語る中から、自然と「新潟水俣病」が浮かび上がってくることが多いのが印象的でした。

また、若い世代の中には流域で生まれ育っても、「新潟水俣病」を知らない人がとても多いことも分かりました。次号では、これまでの「ロバダン！」の様子をまとめてお知らせする予定。ご期待ください！

今後も、流域各地で「ロバダン！」を開催していきます！



●なつ阿賀セミナー 2009

昨年の夏、立教大学と立正大学の学生が阿賀野川流域を訪ね、地元の人々と交流しながら「阿賀の宝もん」の数々や新潟水俣病を現地学習。「阿賀野川え～とこだプロジェクト」も全面的に協力しました。「阿賀野川え～とこだ！環境学習」の将来はこんな感じ！?

阿賀野川の流域地域でなければ学ぶことのできないこと。それらを大切な「阿賀の宝もん」としてあらためて認識し、さらに次世代へ伝えていきたい。それが、私たちの考える環境学習の根幹です。

こうした日本の近代化が生んだ光と影の歴史を現地をたどつて学べる場所です。阿賀野川流域は、これからの華やかな繁栄と、その影で発生する公害。日本の近代化の光と影を象徴するようなこの複雑な歴史は、これからを生きる私たちに多くの教訓を与えてくれるもの。阿賀野川流域は、

時代の「草倉銅山」、昭和時代の「新潟水俣病」という出来事がありました。経済が成長し時代が変わろうとするときにもたらされる華やかな繁栄と、その影で発生する公害。日本の近代化の光と影を象徴するようなこの複雑な歴史は、これからを生きる私たちに多くの教訓を与えてくれるもの。阿賀野川流域は、

いま、「阿賀野川え～とこだプロジェクト」は、阿賀野川流域を舞台に「日本で唯一、ここだからこそ体験できる環境学習」の立ち上げに着手しています。阿賀野川流域は、はるか昔から自然と人間の命を育んできました。豊かな自然と、その自然とともに生きてきた人々の暮らしからは、さまざまな知恵を学ぶことができます。

そしてまた、この地には、明治時代の「草倉銅山」、昭和時代の「新潟水俣病」という出来事がありました。経済が成長し時代が変わろうとするときにもたらされる華やかな繁栄と、その影で発生する公害。日本の近代化の光と影を象徴するようなこの複雑な歴史は、これからを生きる私たちに多くの教訓を与えてくれるもの。阿賀野川流域は、

環境学習の基本理念

新潟水俣病の教訓を
これからの時代に活用できる環境学習を目指して

本理念の最大の特徴は、過去に解決済みの問題とどうえられるがちな公害の教訓から、これから持続可能な社会づくりに向けた心がまえや知恵を学べる環境学習を目指しているところです。

現代は「ごみ問題」など身近な環境問題だけでなく、「地球温暖化」や「生物多様性の危機」など国境を越えた地球規模の環境問題こそ解決困難な課題とされています。

今後、本理念の案をもとに、流域の皆さんと意見交換を展開していきます！



「霧氷湧く」(鹿瀬1月) 撮影:山口冬人(NPP新潟県写真家協会理事)

「阿賀野川え～とこだ！環境学習」 プロジェクトはじまる！

阿賀野川流域を、日本で唯一「ここにしかない」環境学習の舞台に

自然・文化・歴史を通して環境を学べる舞台、
阿賀野川流域地域。

地域再発見講座 「阿賀野川ものがたり」 第2回を今春開催！

様々な「阿賀の宝もん」を通じて、阿賀野川流域の歴史・生活・文化などの光と影を地元の方々とともに発掘し学ぶ地域再発見講座「阿賀野川ものがたり」。

第1回目は「川からの恵みが暮らしを支えた」と題し、平成21年3月14日、道の駅「阿賀の里」(阿賀町石間)を会場に開催しました。地元から「阿賀よ再び蘇れ」著者の神田栄さん(阿賀町)と鉤流し漁の名手、加藤準一さん(五泉市)をゲストに迎え、サケ・マス漁の今昔や阿賀野川のことについて語り合いました。午後からは、新潟大学名誉教授の大熊孝さんの講演。昼食には阿賀の恵みをふんだんに用いた「阿賀の里」特製お弁当も登場し、大好評でした。

第2回講座を今年3月下旬に開催予定。詳しくは次号やブログで随時お知らせしていきます。乞うご期待！



「阿賀野川え～とこだプロジェクト」とは？

正式には「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」(通称FM事業)と言い、阿賀野川流域の各地域がかつて発生した新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」を紡ぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指して始まったプロジェクトです。

阿賀野川え～とこだ！憲章(事業理念)

私たちは新潟水俣病に学び教訓を伝承することで、負の遺産から新たな価値を創造していくことを目指します。阿賀野川流域の宝物を広く内外に発信しながら、公害により失われた人と人、人と自然、人と社会の絆をつむぎ直していきます。地域を愛する人が地域の未来をつくる「流域自治」の確立へ向けて行動します。

(阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業推進委員会)

「阿賀野川え～とこだ！ブログ」ぞくぞく更新中

紙面では紹介しきれない阿賀野川流域の魅力や、このプロジェクトの最新情報が、管理人「メグミ」の阿賀野川な日々(主に食欲関係)と共に綴られています。ぜひご覧ください！



<http://www.aganogawa.info/>

編集後記

創刊号はいかがでしたか？創刊準備号の発行から、1年近く経過してしまいました。本当はもっと早く、流域の皆さんのがんへお届けしたかったのですが…。でも、その分、「草倉銅山パネル展」など…地域の皆さんと共に育み、阿賀野川流域から収穫できたこれまでの活動成果を、どっさりお届けできたように思います。

さて、紙面をご覧になられての皆さんのご意見・ご感想をお待ちしております。また、「草倉銅山」に負けじと、阿賀野川や流域にまつわる「奥ぶかへい歴史」、「え～とこ！情報」、「キラリと光るお宝情報」などなど、どしどしあ寄せください。次号は3月発行予定です。ご期待ください！

阿賀野川え～とこだより 創刊号

発行:新潟県(2010年1月15日)

企画編集:阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業推進委員会 〈事務局/〒959-2221 阿賀野市保田3866-1〉

TEL.&FAX.0250-68-5424 E-mail aganogawa@niigata.email.ne.jp